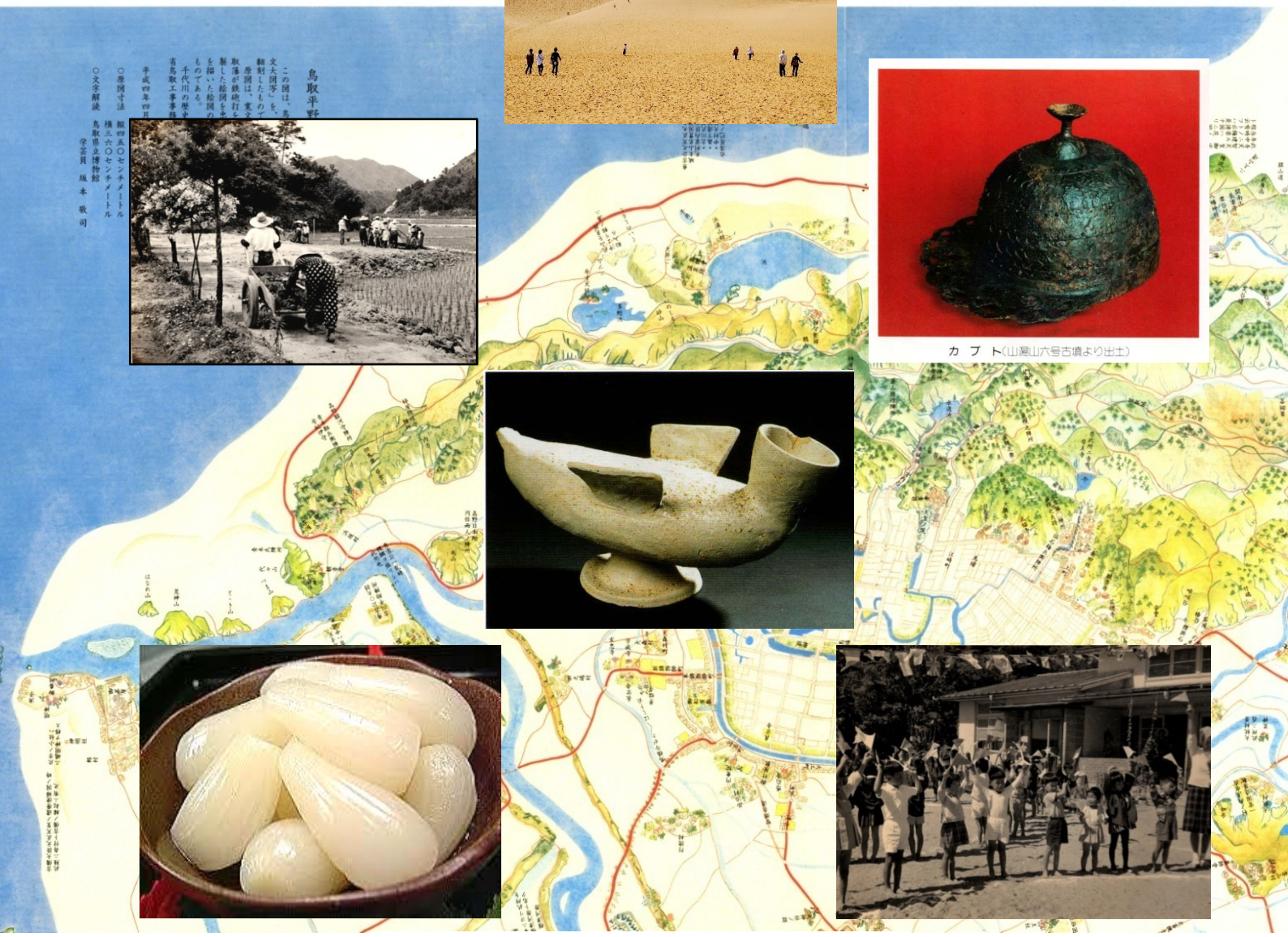
福部歴史読本

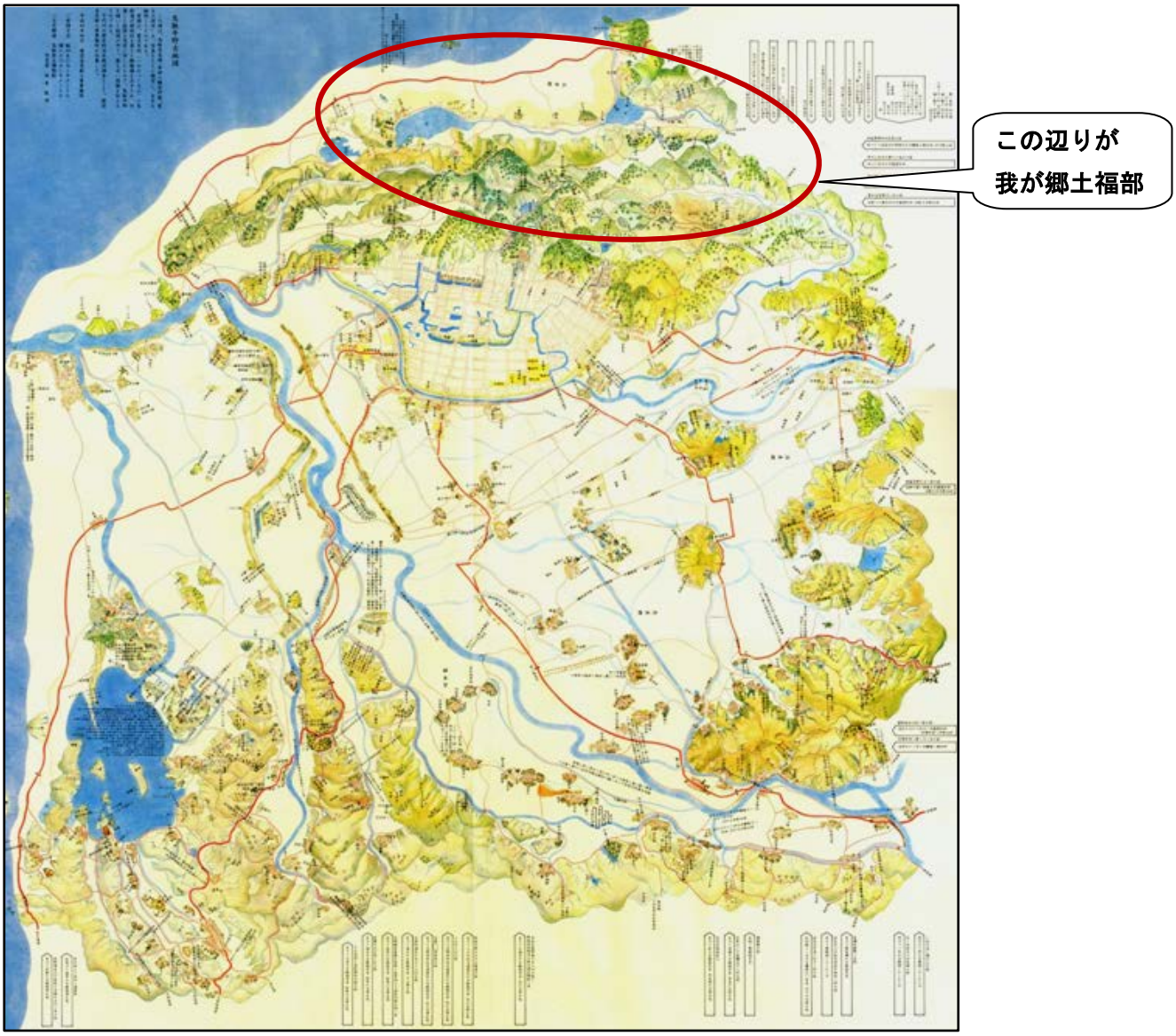


多鯰ヶ池活性化委員会

福部未来学園

まえがき

福部郷土史を作成したいと考えたのは、今から１０年程前に福部の歴史好きで測量関係の仕事をされている方から古絵図を見せられたのが最初です。



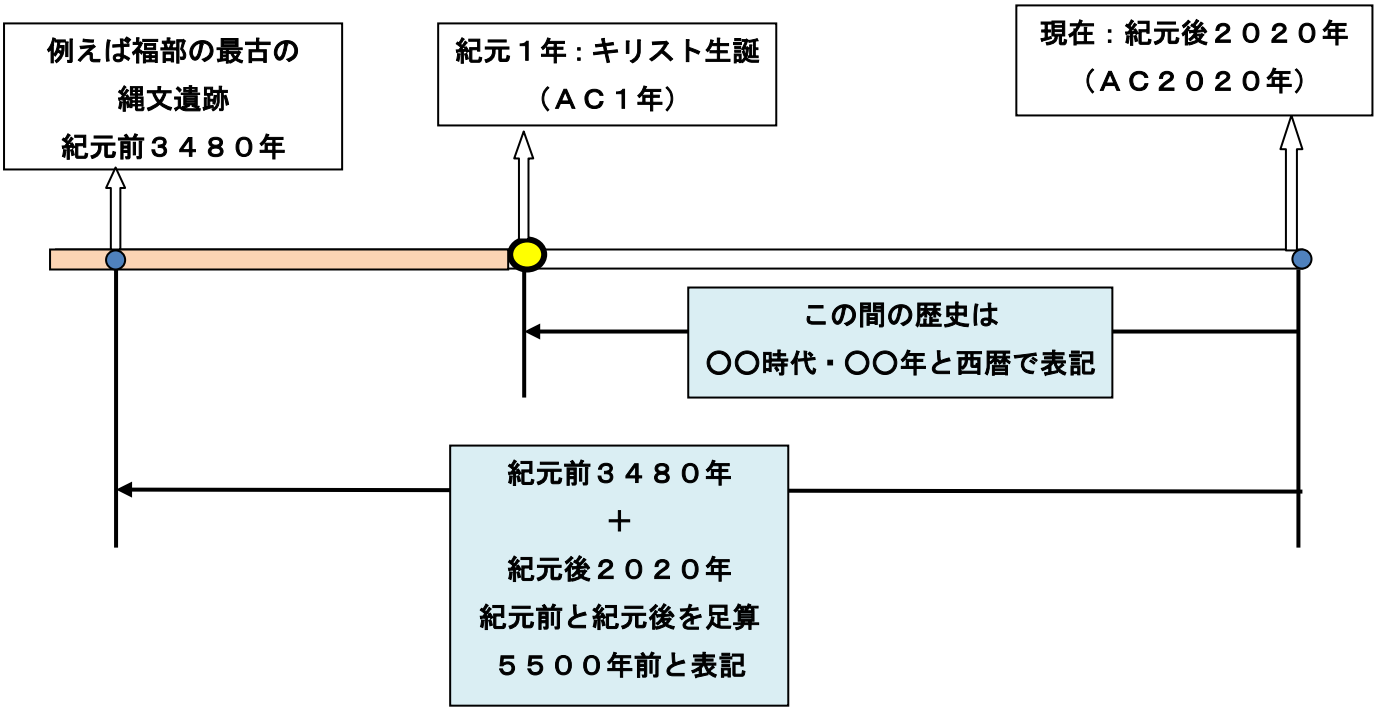
この古絵図は江戸時代中期・寛文年間（１６６１年～１６７３年）に鳥取城下が描かれたもので、鳥取城下が詳しく描かれた最古の古絵図とされています。
この「鳥取城下古絵図」（幅：４５０ｃｍ・縦：３６０ｃｍ）は大きさも巨大で、当時の鳥取城下の**お留場**（おとめば）（一般の狩猟を禁止する場所。 江戸時代、将軍の狩猟場をいう）を記したもので、鉄砲打を禁じた場所が書いてあります。

この地図の存在は知ってはおりましたが、まぢかに見るのは初めてで以前から「福部」の成り立ちや歴史などを機会があれば調べてみたいと思っていました。

１０年後の「令和元年」その機会が訪れて、鳥取市の「鳥取市民まちづくり補助金事業」を知り、福部郷土史（歴史読本）の作成を応募した結果、採択されました。

従来から郷土史は存在していましたが、１０００ページにも及ぶ本で福部の成り立ちや、歴史、文化、行政、スポーツなど幅広く編纂（へんさん）されたもので、特に子供達にはなじみにくい本だと感じていました。

今回の福部郷土史作成の目的は、これから将来にわたり福部の発展の支えとなる「子供達」に読みやすくて分かり易い地図で「我が郷土・福部」の古代から現在に至った歴史を知り、郷土愛を育んで欲しいとの想いです。

この歴史読本（子どもたちに分かりやすいように写真や地図など多く使い書いたので「歴史絵本」と言った方がいいかも知れません）では古代の年代を「紀元前〇〇年」と表記はしないで約何千年前というように表記しています。
子どもたちの何人かは「紀元前・紀元後」の区別がよく理解できないようでした。

紀元とは「キリスト様が生まれた年を言います」この本ではこの本が発行される２０２０年を基準にして下図のグラフのように表記しています。